

2006年2月11日理事会決定

2006年2月12日總會通知

JPCとの協議による  
ジャパンパラリンピック出場要件等の見直し

06年JP大会が国際オープンとなり、IPCとの整合性を図る必要があるため、今後のJP大会も含め変更する。

1、出場年齢要件の撤廃

現在、大会参加資格を4月1日現在で12歳以上の者としている。本大会は主にIPCが主催する国際大会への登竜門として行われている。

現在、IPCの主催する世界選手権などには年齢の制限がない。これらのことから、年齢要件を外すこととする。なお、日本水泳連盟と同様に中学生以下の参加者については、保護者の同意書を求める。

2、「S1浮き具付」を撤廃

現在JP大会では、S1の選手について、浮き具をつけての参加を認めている。

しかし、IPCが主催する大会には、この措置はない。

また、この許可は選手が機能的に浮き具をつけないと泳げないという客観評価に基づいたものではなく、選手自身の判断に任せている。

浮き具をつけて泳ぐ選手は、FCSに基づいたクラス分けではウォーターテスト不可のためクラスは与えられない。

よって、浮き具付を廃止する。

(参考)

レクリエーションとして大会を実施しているCP-ISRAにおいては、FCSを導入しながらも、CP-ISRA独自のクラス分けとしてSF(以前のC1,C2クラスで機能の低い者)というクラスを設け、50mFr、25mFr種目のみをCP-ISRAの大会に適用実施している。

現状をCP-ISRAのクラスデータベースを見る限りでは、SFの認定を受けている選手は諸外国にも見当たらない。

現在、日本で浮き具を付けて泳いでいる選手も機能的に見る限りは浮き具不要の選手である。

浮き具付については日本選手権での対応のみとする。(CPのみとするか、頸損も含めるかは、検討)